



平成28年4月10日（日）午後1時30分～2時30分
さくらホール 小ホール にて

参加者

特定非営利活動法人芸術工房（会員8名）
北上市長 高橋敏彦、まちづくり部長 佐藤秀城

テーマ

「地域づくりと文化芸術」

市長あいさつ：さくらホールがほかの自治体がうらやむような、稼働率の高い運営をすることができるのは、時間をかけて、色々な芸術活動をされている方々と検討した成果であり、芸術工房はじめ様々な皆さんの努力のおかげです。

今日が、これからの活動内容を考える機会になり、芸術工房さんの思いが行政のまちづくりとつながって、相乗効果が出る会になればよいと思います。



NPO法人芸術工房 活動紹介



昆野将俊さん：口内の浮牛城祭りでは、ステージ運営を手伝いました。口内在住のスコップ三味線奏者、ひよっこ太郎さんと、セミプロの三味線奏者、地域住民とのコラボ演奏など企画し、本番のステージで披露しました。

また、市内小学校でも、シンガーとピアニストを呼び「親子ゴスペル体験」を行ったり、プロの役者を招き、コミュニケーション能力や感情の表現方法を体験させたりしました。

芸術工房では、地域や学校に出かけていき、レベルの高いアーティストを紹介し、子どもたちに深い感動を経験してほしいし、地域でのびのびと成長してほしいと思っています。

一方、苦労しているのは資金の獲得です。東京などからプロを呼ぶにはお金がかかるため、主催する学校などに負担をお願いするのは難しく、市などの補助金の採択に左右されてしまうというのが実情です。

その中で、昨年度は、主催者側で多少の資金を用意していただけたケースもありました。そうしていただければ、地元のアーティストを紹介し、対応もできるかもしれません。

宇津志さん：親子ゴスペル体験では、小学校5年生対象だったので、恥ずかしがって、一緒に歌ってこれないのではと心配しましたが、感想が一樣に「楽しかった」とあり、父兄からも高評価だったようです。



さらに、その体験を生かし、アレンジを加えて学習発表会で披露したようです。これは評価をいただいたということでもあると思うし、自分たちが思っていた以上の効果を生み出したということだと感じました。

北上で地域とアーティストをつなぐ
アートマネージャー

新田さん：一般的に、大人になると表現がうまくできなくなってしまう。知恵や体験が役に立つ面と邪魔になる面があるようです。子どもたちは、自由に表現活動ができます。

また、外国と比べると、日本人は表現することが下手だと言われていますが、表現方法を体験することで、大人なっても豊かな表現ができるようになるかもしれません。

メンバーには、西和賀町で活動しているものもいます。こうして、活動が北上市を超えて広がっていくことも良いことだと思います。



地域づくりと芸術文化

- ・アーティスト及び16地区の現状について
- ・地域づくりに求められる文化芸術の役割について
- ・あじさい都市の実現に向けた芸術工房の役割について

昆野将俊さん：アーティスト自身の情報発信については、本人に委ねられているので、地域や学校では、情報を得るのが困難です。

芸術工房でも「アートリンク」という登録システムを作りましたが、登録が進みません。やはりそこは公共から、特に県レベルで進めてほしいです。

アーティストの情報提供

北上市長：県でも仕組みはありますが、情報が集まってこないようですね。情報を持っている組織との協働が必要だと思います。



昆野将俊さん：また、地域のイベントのプランは、地元のアーティストと企画段階から一緒に、予算の中でより充実した仕掛けを作ることできますので、自分たちだけで考えないで、マネジメントしているような組織に相談してみしてほしい、ということも周知していかななくてはならないと思います。

宇津志さん：私の父も、地元芸能の後継がなくて苦労しているようですが、さくらホールや芸術工房などの協力してくれる団体があるということを知りません。どうにかして周知したいと思いますが、方法が難しいと感じています。

芸術工房の、認知度は？

北上市長：それには行政の責任もあります。県ではNPO・ボランティア活動情報誌（PIN）発行していますが、市レベルでも、即時性のあるものを作っていかななくてはなりません。将来的には、ケーブルテレビなどのメディアも活用していきたいと思っています。この会はHP等にも掲載されますので、そういう機会を活用してほしいと思います。



佐藤芳江さん：私は紫波町在住で小規模校に通いましたが、北上では子どももたくさんいて、保護者にも色々な世代がいます。その規模で体を動かしながら芸術に触れるということがすごく恵まれていると感じます。子どもたちには、様々な経験をして成長してもらいたいし、大人でも、今は核家族化しているので、地域の方々と交流を深めてもらうのにも、どんどんそういう機会を利用してほしいと思います。

芸術文化が地域にもたらす影響

名須川さん：即物的に、この時間だけどうしたらいいかと考えるのではなく、長い目で、どうしたら子どもに有意義な時間を過ごしてもらい、その後につないでいけるかということを考える必要があると思います。



佐藤庸子さん：16地区の現状として、統一されて平等に芸術が与えられているのではないですね。地域によって取り組みへの印象の違いがあります。

昆野将俊さん：各地区には、アートマネージャーがいないのが普通だと思います。アートマネージャーやアーティスト自身が、あちこちに足を運び、各地区も無いものは他から仕入れるスタンスが必要だと思います。

昆野将俊さん：地域づくりのために芸術文化を活用しようという発想は本末転倒。私たちは、まず芸術文化が浸透しないと、地域づくりは進んでいかないと考える必要があります。

芸術文化を通して活性化！

千葉さん：市民は全員、文化的な生活を送る権利があります。芸術工房やさくらホールが協力して、北上市は、こんなに文化が豊かな地域だとPRしていけば、もっともっと北上が活性化していくのではないかと思います。まずは、直感的に「芸術っていいな」と思える場面を増やしていかなければならないと思います。



新田さん：どこでも「マンネリ化」があるように思います。例えば、北上の伝統芸能といわれているものも、紆余曲折があり、変化しながら、今の形になっているはず。変化というのは、踊りの所作ではなく、考え方。伝統を守るのももちろん大切ですが、伝統芸能をどう地域に生かすか、新しい考えで創造していかなければならないと思います。

組織も芸術文化も必要なのは変化

北上市長：組織というのは、黙っていれば保守的になりますので、誰かが変えようと一生懸命にならないと、変わりません。みなさんの発言を、組織は待っています。

新田さん：芸術は環境に支配されるのではなく、芸術は環境を変えていく力があると思っています。自己表現や趣味として楽しいということもひとつですが、プロの芸術家は命を懸けて、「こうやったら社会が変わるだろうな」とまで考えています。

芸術文化はすべて個人の自己表現のためと思われがちですが、環境を変えうる創造性があると周知していく必要があります。

芸術は地域を変える！

千葉さん：地域にいる芸術家がキーワードです。地域にいながらにして、地域を変えてくれる力を持っている芸術家は、子どもたちにも、色々な職業・手段で「社会を変えたい」と活動している人がいることを見せられますし、それは地域の多様性につながっていきます。



まちづくり部長：16地区の地域づくりは、仕組みができて10年になり、各地域でも、どう変えていったらいいか悩んでいます。芸術工房さんの活動は今後も継続いただきたいですし、市でも、情報共有の場を作っていきたいと思っています。芸術文化の分野をはじめ、若い人たちの参加も増えれば、地域にとってもいいことだなと思います。

行政は「継続」が目的になってしまいがちですが、新しい発想で意見を出していただいて、本来の目的を大事にしていきたいと思っています。



ふりかえり



昆野世宙さん：今後、日本でも労働時間が減って、余暇が生まれる時代が来ることは間違いないと思います。その時に、選択肢として「芸術文化」があることを知っているかどうか、知っていても実際にはお金がかかることが課題だと思います。

芸術工房では、ここで働くことで貯められて、芸術鑑賞などに使うことができる「アーツ」という仕組みがあります。今まで関わりのなかった人もまずは仕事として関わって、機会を作ることでもいいのではないかと思います。

これからのライフスタイルと芸術

北上市長：あじさい都市にはハード面とソフト面、2つの狙いがあります。ハード面は、将来車が使えなくなったときにも、ある程度歩いて暮らせるまちづくりをしようというもの。

ソフト面は、どんなライフスタイルを作っていくか、というもの。基本になるのは自分の仕事ですが、そのうえで自分の時間を生み出し、その時間を使って、生活を豊かにしてくれるものを育ていけるような環境づくりをしたいと思います。



市では、将来起こりうる環境制約（エネルギー不足、環境問題など）の中、豊かな生活を送るライフスタイルのあり方と実現方法を考えるという取り組みが始まっています。市民の皆さんにも広げて、一緒に考えていきたいと思っています。そこには芸術文化が大きく関わってくると思います。

誰でも当事者になれるのが芸術文化

千葉さん：芸術文化は赤ちゃんから老人、障がいを持つ方、全部をひっくるめて当事者になれるというのが大きな強みです。それを生かし、何ができるかというのが非常に重要です。ここにもやる気のある皆さんがたくさんいるので、続けていきたいと思っています。

北上市長：今や、まちを良くするのに、何でもかんでも「行政がやって」という時代ではなくなっています。例え、それで新しいものができたとしても、自分が関わらなければ満足できないのです。いいものができなくても、自らが関わることで、自分の地域あるいは関わったことへの誇りが生まれます。

だから今、まちを自分たちで育てていこうという動きが出ています。芸術工房さんには奮闘いただいています。今後は一緒にそういう社会を作り上げていこう。

